

平成30年度自己評価シート(中間評価)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原 健次	Ⓐ・定・通	Ⓑ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1	活力があり、魅力ある学校づくり				
進学したい学校となる	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・大阪等都市部で説明会を実施する。 ・夏期休業中に「大崎海星高校見学ツアー」を開催する。 ・民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪の中学校を訪問し、学校案内の配付を依頼する。 ・学校説明の場において、生徒がプレゼンテーションするよう取り組む。 	A	東京・大阪等都市部で説明会や大崎海星高校見学ツアー等、すべての行動計画を順調に実施することができた。	教務	
地元から信頼される	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生を対象とした個別相談を実施する。 ・地元中学校との懇談会を定期的実施し、志願者の動向を把握する。 ・地元中学校を対象としたオープンスクールを開催する。 ・地元中学生の保護者対象の説明会を開催する。 ・地元中学校へ本校の教員が出向いて定期的に授業を行う。 	B	地元中学校を対象としたオープンスクール等、概ね順調に実施することができた。	教務	

【評価結果の分析】

- ・東京・大阪・名古屋・博多において説明会を実施した。特に、東京・大阪では多くの生徒・保護者に説明することができた。
- ・8月は「見学ツアー」を実施した。計画した10組を越える17組の参加があった(昨年は5組の参加)。東京での説明会の成果であると考えられる。
- ・4月は今年度修学旅行で大崎上島に民泊を予定している大阪の中学校10校を訪問し、パンフレット等の配付を依頼した。
- ・東京・大阪等での説明会、地元中学校の保護者対象の説明会、オープンスクールにおける学校紹介は、「みりよくゆうびん局」に所属している生徒がプレゼンテーションを行った。
- ・地元中学校で三者懇談の期間に個別相談の場を設けた。個別相談の場所が懇談の教室よりも奥にあり、生徒・保護者にわかりにくかったため、その場に来た中学生は少なかった。
- ・7月のオープンスクールは、西日本豪雨のため中止としたが、地元中学校と連携を取り9月に実施した。地元中学校38人(3年生全員)と島外から18人(県外2人)の参加があった。本校生徒による学校紹介やグループワークを実施し、参加者から好評を得た。
- ・8月は地元中学校に出向き、保護者対象の説明会を実施した。本校生徒による学校紹介や、グループに分かれての質疑応答(保護者の質問に生徒が答える)を行った。特に、質疑応答の時間はどのグループも活発に意見交換を行った。
- ・地元中学校において、数学と英語の授業連携を、毎週月曜日に行っている。

【今後の改善方策】

- ・学校説明を行う機会は今後あまりないが、次年度に向けて本校の魅力を伝える内容づくりや生徒のプレゼンテーション力の向上に取り組む。
- ・中学3年生を対象とした個別相談の場所は、次年度分かり易い場所になるよう依頼する。
- ・現在、サッカー部とバレーボール部は地元中学校と合同練習を実施しているが、今後も継続できるように働きかけていく。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
2 島ならではの課題発見・解決型のキャリア教育を推進する				
伝統文化や地域の活性化策などを教材とした取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島学Ⅰ」において、「權伝馬」、「和太鼓」、「オキウラマルシェ」などを教材に指導する。 ・役割分担をして体験的に学びを深める。 ・調べたこと、考えたことをまとめて発表する機会を設ける。 	B	1学期は「旅する權伝馬」を教材とし、生徒が役割を分担し体験活動に取り組んだ。「旅する權伝馬」の広報活動に関して調べ、考えたことを発表する機会を設けた。	1学年
仕事や生活などを教材とした取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島学Ⅱ」において、「島の仕事図鑑」などを教材に指導する ・フィールドワークを通して学びを深め、さらなる課題を発見する力を身に付けさせる。 ・調べたこと、考えたことをまとめて発表する機会を設ける。 	B	「ファームスズキ」を訪問する等、フィールドワークに出て、地域の課題発見に取り組んだ。	2学年
島を活性化案の策定など論理的思考力や表現力を高める取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島学Ⅲ」において、生徒自ら経験を教材として指導する。 ・課題を設定し、練った解決策を発表する機会を設ける。 	B	現在グループごとに調査研究を行っている。発表は2月上旬を予定している。	3学年
地域と一体となった取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて「海星バーガー」「スムージー」など本校が開発した商品を販売する。 ・必要に応じて、和太鼓部やソーラン部が地域行事を盛り上げる。 	A	マルシェ、地域の祭り等で商品を販売している。和太鼓部、ソーラン部の参加も積極的に行っている。	生徒指導

【評価結果の分析】

- ・大崎上島学Ⅰは、「旅する權伝馬」を教材として課題発見・解決型の学習を行った。自分の個性に合わせて役割分担を行ったが、あまり主体的に関われない生徒もいた。また、「旅する權伝馬」をどう広報していくか、という内容に関してアイデアを出し、グループでまとめて発表した。
- ・大崎上島学Ⅱは、地域人材の活用を通して、地域や地域の産業について理解を深めている。地域で特色ある活動をされている人材を招いてインタビューし、記事にまとめ発表を行った。一人一人に役割をもたせ活動したが、課題を深掘りして考えることに課題がある。
- ・大崎上島学Ⅲは、1学期までは課題発見解決及び解決策の考察、発表について、講義演習を行った。夏季休業中は各自の課題について調査を行わせ、現在解決策などについて考察している。
- ・地域の「海星バーガー」の認知度や和太鼓部、ソーラン部の活躍が広く認められるようになり、地域関係者や福祉施設等から依頼を受ける回数が増えてきている。生徒の参加者も増加している。

【今後の改善方策】

- ・大崎上島学Ⅰは、2学期に実施するオキウラマルシェ参加において、生徒を小グループに分ける、仕事や役割を増やすなど生徒全員に役割や仕事がいきたるようになる。またプレゼンテーションの練習やグループワークをより良くする手法(KJ法など)を導入し、発表の質を高めていく。
- ・大崎上島学Ⅱは、一人一人に学習テーマや課題意識をもたせ、フィールドワークに出るまでの事前学習を充実させる。
- ・大崎上島学Ⅲは、各グループのアイデアを練り直し、実現可能であり、持続可能なものに高めていく。また、プレゼンテーションの作成、発表練習を行う。
- ・ボランティア参加者が特定されつつあるので、広く呼びかけより多くの生徒が参加できるようにする。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 不透明な社会を力強く生きることができる学力の育成				
生徒の進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどを通して、公営塾との連携を密にし、学校と公営塾が一体となった指導体制を確立する。 ・必要に応じてAO・推薦入試に応じた指導を行う。 ・個々の生徒に応じた個別指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで17回のミーティングを行った。 ・AO推薦講座を19回行った。 ・就職希望者9名、進学希望者7名が受験した。 	進路指導

【評価結果の分析】

- ・公営塾「神峰学舎」とのミーティングは、木曜放課後に概ね毎週行っている。生徒の学習状況や進路希望、塾の夢☆ラボなどについて、連携できている。
- ・AO推薦受講者のうち、2名が大学入試を受験し、9末時点で1名は合格した。残り1名は結果待ちである。
- ・就職希望者10名のうち、9名が受験した。そのうち、9月末時点で一般就職では5名の生徒が内定を得ている。

【今後の改善方策】

- ・公営塾とのミーティングは、継続して実施していく。
- ・AO推薦講座を11月まで行い、国公立大学受験に向けた指導に力を入れていく。
- ・就職希望のうち、2回目以降の応募への準備を進める。また、内定を得た生徒への早期離職を防止するための指導を行う。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
4 ワーク・ライフ・バランスがとれた職場の実現				
定時退校日の完全実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日は、勤務時間終了後30分以内に全職員が退校するよう取り組む。 ・定時退校日でない日は、18:30以降に校内で業務を行う場合は、あらかじめ管理職の許可を得るようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に退校するよう声掛けを行った。 ・18:30以降業務を行う場合は、管理職が業務の確認を行った。 	管理職

【評価結果の分析】

- ・教職員が早期に退校するよう声掛けを行った結果、昨年度よりも時間外勤務時間が大きく減少した。
- ・業務改善に向けたアドバイスをを行い、早期に退校できるよう指導した。

【今後の改善方策】

- ・今後ともこれまでの取組を継続する。

平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原 健次	☑・定・通	☑・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

〔1〕 活力があり、魅力ある学校づくり

- ・東京・大阪・名古屋・博多において説明会を実施した。特に、東京・大阪では多くの生徒・保護者に説明することができた。
- ・8月は「見学ツアー」を実施した。計画した10組を越える17組の参加があった(昨年は5組の参加)。東京での説明会の成果であると考えられる。
- ・4月は今年度修学旅行で大崎上島に民泊を予定している大阪の中学校10校を訪問し、パンフレット等の配付を依頼した。
- ・東京・大阪等での説明会、地元中学校の保護者対象の説明会、オープンスクールにおける学校紹介は、「みりよくゆうびん局」に所属している生徒がプレゼンテーションを行った。
- ・地元中学校で三者懇談の期間に個別相談の場を設けた。個別相談の場所が懇談の教室よりも奥にあり、生徒・保護者にわかりにくかったため、その場に来た中学生は少なかった。
- ・7月のオープンスクールは、西日本豪雨のため中止としたが、地元中学校と連携を取り9月に実施した。地元中学校38人(3年生全員)と島外から18人(県外2人)の参加があった。本校生徒による学校紹介やグループワークを実施し、参加者から好評を得た。
- ・8月は地元中学校に出向き、保護者対象の説明会を実施した。本校生徒による学校紹介や、グループに分かれての質疑応答(保護者の質問に生徒が答える)を行った。特に、質疑応答の時間はどのグループも活発に意見交換を行った。
- ・地元中学校において、数学と英語の授業連携を、毎週月曜日に行っている。

〔2〕 島ならではの課題発見・解決型のキャリア教育を推進する

- ・大崎上島学Ⅰは、「旅する権伝馬」を教材として課題発見・解決型の学習を行った。自分の個性に合わせて役割分担を行ったが、あまり主体的に関われない生徒もいた。また、「旅する権伝馬」をどう広報していくか、という内容に関してアイデアを出し、グループでまとめて発表した。
- ・大崎上島学Ⅱは、地域人材の活用を通して、地域や地域の産業について理解を深めている。地域で特色ある活動をされている人材を招いてインタビューし、記事にまとめ発表を行った。一人一人に役割をもたせ活動したが、課題を深掘りして考えることに課題がある。
- ・大崎上島学Ⅲは、1学期までは課題発見解決及び解決策の考察、発表について、講義演習を行った。夏季休業中は各自の課題について調査を行わせ、現在解決策などについて考察している。
- ・地域の「海星バーガー」の認知度や和太鼓部、ソーラン部の活躍が広く認められるようになり、地域関係者や福祉施設等から依頼を受ける回数が増えてきている。生徒の参加者も増加している。

〔3〕 不透明な社会を力強く生きることができる学力の育成

- ・公営塾「神峰学舎」とのミーティングは、木曜放課後に概ね毎週行っている。生徒の学習状況や進路希望、塾の夢☆ラボなどについて、連携できている。
- ・AO推薦受講者のうち、2名が大学入試を受験し、9月末時点で1名は合格した。残り1名は結果待ちである。
- ・就職希望者10名のうち、9名が受験した。そのうち、9月末時点で一般就職では5名の生徒が内定を得ている。

〔4〕 ワーク・ライフ・バランスがとれた職場の実現

- ・教職員が早期に退校するよう声掛けを行った結果、昨年度よりも時間外勤務時間が大きく減少した。
- ・業務改善に向けたアドバイスをを行い、早期に退校できるよう指導した。

2 今後の改善方策

〔1〕 活力があり、魅力ある学校づくり

- ・学校説明を行う機会は今後あまりないが、次年度に向けて本校の魅力を伝える内容づくりや生徒のプレゼンテーション力の向上に取り組む。
- ・中学3年生を対象とした個別相談の場所は、次年度分かり易い場所になるよう依頼する。
- ・現在、サッカー部とバレーボール部は地元中学校と合同練習を実施しているが、今後も継続できるように働きかけていく。

〔2〕 島ならではの課題発見・解決型のキャリア教育を推進する

- ・大崎上島学Ⅰは、2学期に実施するオキウラマルシェ参加において、生徒を小グループに分ける、仕事や役割を増やすなど生徒全員に役割や仕事がいきわたるようになる。またプレゼンテーションの練習やグループワークをより良くする手法(KJ法など)を導入し、発表の質を高めていく。

いく。

- ・大崎上島学Ⅱは、一人一人に学習テーマや課題意識をもたせ、フィールドワークに出るまでの事前学習を充実させる。
- ・大崎上島学Ⅲは、各グループのアイデアを練り直し、実現可能であり、持続可能なものに高めていく。また、プレゼンテーションの作成、発表練習を行う。
- ・ボランティア参加者が特定されつつあるので、広く呼びかけより多くの生徒が参加できるようにする。

〔3〕 不透明な社会を力強く生きることができる学力の育成

- ・公営塾とのミーティングは、継続して実施していく。
- ・AO推薦講座を11月まで行い、国公立大学受験に向けた指導に力を入れていく。
- ・就職希望のうち、2回目以降の応募への準備を進める。また、内定を得た生徒への早期離職を防止するための指導を行う。

〔4〕 ワーク・ライフ・バランスがとれた職場の実現

- ・今後ともこれまでの取組を継続する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・地域の伝統・文化・産業・自然を教材とする「大崎上島学」は、より地域へ出て課題発見・解決学習をすることで教育内容を充実させる。
- ・国立大学や難関私立大学への希望者に対して、公営塾と綿密に連携して個別指導を行う。
- ・みりょくゆうびん局は、説明会や講演会等のレゼンテーションで高い評価を得た。今後は、生徒が活躍する場を増やすことで、さらなるスキルアップを目指す。

平成30年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成30年10月25日

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原 健次	☑・定・通	☑・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	・目標に向けて確かな指標を持ち実績値, 目標値を見通しながら決定している。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	・計画通り順調に進んでいる。評価も適切に行われている。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	・目標達成に向けて様々な取組を工夫している。学校経営目標達成に向けて更なる工夫・改善を図って欲しい。
評価結果の分析の適切さ	A	・項目ごとに評価の分析が具体的に行われている。
今後の改善方策の適切さ	B	・新たな知恵を出し, この学校に入学したい, 学びたいと思う魅力の開発を推進して欲しい。
総合評価	A	・順調に取組は進んでいる。安定した学校となるよう一丸となって取り組んで欲しい。